



笑顔いっぱい 夢いっぱい

郡山市立安積第三小学校

学校だより No.48

令和7年11月14日

文責：校長 酒井 健

◇自然の中でいろいろなものを見つけよう

11月13日(木)、1年生の子どもたちは、校庭や学校林にある木々や生き物などについてじっくりと観察をする学習をしました。外部講師として、「自然観察の会ふくしま」理事を務めている横田清美先生をお迎えして、先生の解説のもと、2校時に1年1組、3校時に1年2組の子どもたちが学習することができました。子どもたちにとって、初めて知ったことがたくさんありました。「え〜」「すご〜い」・・・感嘆の声がたくさん聞かれました。学校の敷地内に、このような自然があるということ・・・本当に素晴らしいことですね。横田先生も、「敷地内で、このように自然と触れ合うことができるなんて、とても贅沢なことですね」と話されていました。



◇「学校保健委員会」が開催されました。

11月13日(木)、安積第三小学校の「学校保健委員会」が開催されました。学校医の先生方、PTA役員の方々にお越しいただき、そして学校からは校長・教頭・養護教諭・体育主任・保健主事・給食主任・栄養技師が参加して、「子どもたちの健康」について話し合いが行われました。

子どもたちの健全な心と健康な身体を育てていくために、出席された皆さんから、いろいろなお話をいただくことができました。



校長のひとりごと

ある有名な数学者のお話です。

私は、子どもの頃から、ずっと算数・数学が得意だったわけではない。計算ミスは多いし、文章問題は読んでも意味がわからないし・・・。だから、むしろ数学は嫌いな教科であった。

そんな私の転機は中1の夏休み。友達と一緒に宿題をやっていたときのことだ。自分の計算が間違っていたのだが、その友達が「この部分がおかしいよ」と教えてくれた。それだけなら別にたいしたことはない誰にでもよくある光景だが、それまで何度も同じミスをしてきて「どうして間違えてしまうのだろう」と思いながらも、自分の計算ミスのくせに気付かず放置していた自分にとって、初めて、「あっ、こういうことだったのか」と分かった瞬間に出会えたのである。

霧が晴れるように、自分の視界が一気に明るくなり、本当に気持ちがよかった。この気持ちよさこそが数学の楽しさだと気付いたのは、ずいぶん後になってからだけど、「数学という教科とどうやって付き合っていけばよいか」のコツみたいなものは、はっきり分かったような気がした。

それまでは、特に宿題なんて、よく考えずに「とにかく終わっていれば怒られないから」という気持ちで雑にやっていた。でも、この時から、この問いでは、自分のどんな知識を試そうとしているのだろう？どんな方法で解けば簡単にできるだろう？なぜその方法で解けるのだろう？と考えるようになった。つまり、分からないことを放置せずに、「あっ、こういうことか！」という発見の回数を増やすことにした。・・・(中略)・・・二年後の3年生の夏には数学が一番の得意教科となった。

この時の出来事は、「自分の人生を変えてしまうほどのきっかけ」であった。



“きっかけ”って大切ですね。算数が好きになる・リコーダーが得意になる・みんなの前で堂々と話すことができる・なわとびが上手になる……子どもたちの身の回りには、たくさんの“きっかけ”があります。その“きっかけ”に気付くかがポイントなんですね。

学校でも、ご家庭でも子どもたちの、この“きっかけ”を大切にしていきたいものです。私自身、これまで、たくさんの“きっかけ”があり、今の自分が在るんだと感じています！